

平成 29 年度 地方創生効果検証会議（平成 29 年 8 月 9 日開催）の評価まとめ

■地方創生効果検証会議について

この会議は、「福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、総合戦略の確実な推進を図るため、外部有識者から戦略に対する施策展開、成果検証等の意見聴取を行うものであり、構成は以下 5 名。平成 28 年度の会議について、地方創生先行型交付金事業に限定して検証を実施、平成 29 年度の会議については、地方創生加速化交付金事業と戦略全体を検証。

（順不同、敬称略）

所属	役職	氏名
(株)西日本シティ銀行	人事部付部長	芹野 千佳子
西南学院大学	経済学部教授	近藤 春生
行政経験者	元県職員	富安 節子
いろどり真愛保育園	園長	安德 尊博
(一社) 福津市観光協会	会長	高島 亮一

■外部有識者意見のまとめ

地方創生効果検証会議での意見・評価は下記の通り。

●戦略全体に対する意見

- 通常の施策をテーマ別に寄せ集めた印象を拭いきれない。市として重点的に取り組む課題を区別するなどの工夫を、今後はしてもよいのでは。

●「基本目標Ⅰ：地域資源を生かした魅力あるしごとづくり」

・「新たなまちづくり組織の設立」について

- 地方創生では、わが国の厳しい社会情勢の中で、地域が自らの力で成長の種をつかむことを期待されており、公共部門も一定の役割を果たすことが重要であると考えられる。その点で、まちづくり組織の必要性や効果について、綿密な検討を行うことは必要不可欠であり、KPI 達成の前提条件の一つとして有効であったと判断する。
- マーケットインの考えで、基礎調査及び自立性調査が終了し、まずは課題が整理でき、方向性が見えたことはいいことだと思う。
- 観光入込客実態調査と産業実態調査の 2 つの基礎調査により、課題の整理と、課題解決の方向性、まちづくり組織形成の基本方針を検討し、各ステークホルダーに認識共有できた点は、評価できる。

- 自立性調査により、収益計画の妥当性もある程度検証できたものとする。
- これから更に福津市を盛り上げていくために、まちづくり組織の設立により、そこに関わる方々がそれぞれの角度から活発的な意見を交わらせていく中で、共通の価値観と具現化案が見えてくると思う。
- 農水産業においてはやはり、仕事としての魅力、次世代の担い手づくり、そして運営面等に課題もあると感じた。これから一次産業の安定が、暮らしの安定といって過言ではない時代だと思う。学校給食や飲食店、直売所での食の提供、更に福岡市などの飲食店への食材のアピールを継続していきながら、「福津のおいしい食材」をキーワードに一つの魅力となっていくことを願う。
- 具体的な組織成立に向けての手続きについては、全て今後ということであり、期間内の計画達成が危ぶまれる状況。総論賛成、各論反対で長期化すると、「検討」がゴールになってしまうため、ロードマップの早急な見直しと、具体策実行のスピードアップが求められる。
- これまでは基礎調査が主だったとのことだが、そのデータを基に、これからしっかりした組織が設立されることを期待する。
- 民間のノウハウを活用することとして、組織の運営責任者の雇用期間を5年程度と定めて、全国から公募することも検討されてはどうか。

・「福津産品の販路開拓」について

- 試行錯誤の先に着実に広がってきているなど感じている。流通の関係でどの特産品も供給できるわけではないようだが、福津市の特産品が多くの方々に届くことで、生産者のやり甲斐、消費者の喜びが大きくなるのではないかと思います。そして一次産業についての魅力が大きくなればと思う。

・「空き店舗等の活用」について

- 空家調査により所有者の特定に繋がったり、その後の売買のマッチング等に繋がったり効果が大きいと思う。
- 高齢社会が一層進行する現代において、空家所有者の調査は大きな成果を上げていると思う。

・「空き店舗等の活用」「企業誘致」について

- 2つの取組内容を連携させ、空家を改修してスモールオフィスとしてウェブデザイナー等を誘致してはどうか。（空家の所有者の承諾があるが、所有者も家賃収入が期待できると思う。）

・「企業誘致」について

- サテライトセンター勤務（TMJ）への多数の応募については、適切な職場の提供があれば潜在労働力を発掘できるということを示した、働き方改革の好事例である。地域雇用＝工場誘致といった既成概念にとらわれず、地域で安心して働ける新しい職場づくりを、今後も継続していただきたい。

●基本目標Ⅱ：地域の活力と賑わいのあるまちづくり

・（基本目標Ⅱ全体に対しての意見）

- 個々の事業が分断されて実施するのではなく、交通体系の整備、観光事業の設計等、一体となって連携をとりながら政策を企画していただきたい。
- 世界文化遺産見学者のための観光手段である公共交通網形成の計画が、できる限り早く具現化できることを願う。運用が始まれば、世界遺産と福津の文化、食、体験などがマッチングし、更に活気あふれる街になると思う。

・「公共バス路線の再編」について

- コミュニティバスの活用は不可欠。但し、自宅近くのルートしか情報が分からない。また、市外からの人にも津屋崎地区の観光資源へのアクセス方法をもっと情報発信してほしい。

・「新原・奴山古墳群の活用」について

- 多くの方々の関わりによって実を結び、世界文化遺産登録されたことはとても素晴らしいことだと思う。
- 世界遺産登録決定により、市への観光入込客数が増加した点は評価できる。
- 関係機関や関係者の皆様の永年の御努力・御尽力により世界文化遺産に登録されたことは最大の成果と思う。平成28年度の事業も具体的で効果があったと思う。
- 当事業では、多角的な取組を行うことによって、世界遺産登録やその後の実績につながっていると考えられる点で、現時点ではKPI達成に一定の効果があると判断する。
- 広報活動やふくつ古墳馬車の観光整備などを含め、住民の意識も「世界遺産」について浸透していていると思う。
- これから、国内外に関わらず多くの観光客が福津の地に足を運ばれることになろうかと思う。そのためにも、まずは福津市民が、沖ノ島や新原・奴山古墳群との関連性等の歴史について学べる場があり、そして宗像市との連携による観光周遊コースが設けられ、世界遺産と福津の良き文化、食、自然との関係性の中でさらに魅力あふれる街になることを願っている。
- 入込客の経験の質を高め、リピーター、良い口コミを増加させるための手がかりとして、来場者アンケート等のフィードバック手段を設けていない点は残念（当然、世界遺産を守るという観点でも活用できる）。
- 古墳建造当時の風景に近づけるための周辺整備、公共交通の整備（経路など、さらに工夫が必要）に加え、レンタカー・観光バス等を組み込んだツアー連携など、今後の整備課題が多い。
- 今後については、交通アクセスの整備が急務であり、他の観光施設との回遊ルートの開発も重要である。
- 市内の全小学生や全中学生を対象とし、毎年一定の学年を事前学習させた上で、社会科見学地として活用してはどうか。

- 世界遺産登録に伴う一時的な効果が現れているだけの可能性もあり、今後も観光客数を伸ばせるように取り組みを工夫する必要がある。
- 今後の事業の費用対効果を継続的にモニタリングし、必要に応じて事業の組み換え等も怠るべきでない。

●基本目標Ⅲ：安心して出産・子育てができるまちづくり

・（基本目標Ⅲ全体に対しての意見）

- 国平均、近隣市町村等に比べて、子育てしやすい実績、環境があるならば（職員の地道な努力も含めて）開示してはどうかと考える。
- 上記の取り組みをより集約化したモデル地区を設定することは、地域の活性化にもつながる。
- 著しい人口増と共に、保育所など乳幼児施設の需要がとても高くなっている。需要については、福津市内の地域によっても状況は異なっているが、施設整備の必要性、また人材確保等、ソフト面・ハード面ともに喫緊の対策が求められていると感じている。

・「病児保育の充実」について

- 若い共働き世帯にとって、病児保育の充実は重要。こういう施策が充実すれば、市外からもっと若い世代を呼び込むことができる。